

アイテレビ 50周年記念事業

すみやまで行っお酒造り

～“何も無いところ”に“豊かさ”がある。絆が育てる地域の未来～

創立50周年を迎えるにあたり、育てていただいた地域の皆様に何か恩返しができないかと考え、この取り組みに挑戦しました。

▼品種はさかの華



▼昼食タイム



▼鎌で手刈り



▼天日干し



▼古伊万里酒造



人と人のつながりによる地域循環型社会を構築することで、地域経済の活性化、雇用の創出、都市から地域への移住、そして地域住民との絆を深める。そんなことを夢見て、お酒造りは田植えから始めました。

場所は、標高500mのところにある伊万里市二里町炭山(すみやま)の棚田です。炭山の世帯数は12世帯。いわゆる過疎地域です。今回の酒造りで、地域住民が盛り上がり、近い将来、この炭山でお酒や蕎麦を提供するお店ができ、雇用が生まれ、住民が増え、お酒も売れて、米の生産量も増えれば最高です。

6月に行った田植えは、農作業をすることで食について考えたり、コミュニケーションのきっかけになればと、当社コミチャンで親子30名を公募し、昔ながらの手植えをしました。炭山地区の住民の皆さん、地元酒蔵・古伊万里酒造の前田くみ子社長、当社からは、将来を担う20代の若いメンバー10名の合計60人で、心を込め、5アールの棚田にひと苗、ひと苗丁寧に植えていきました。

周年事業ということもあり、参加費は無料だと考えましたが、この取り組みは一過性で終わらせるのではなく、継続することに意味があると思い、有料(1人あたり1,000円)で実施しました。

10月には田植え参加者を中心に、鎌を片手に稲を手刈りした後、天日干しをし、1週間後に脱穀しました。天日干しすることで、葉や茎に残っている栄養分が稲に行き渡り、更に旨味が増すそうです。

田植え、稲刈りの後は、炭山の皆さんが、炭山の炊き立てご飯に豚汁、きんちゃく、ナスの胡麻和え、漬物、デザートとして芋と蒸しパンを振る舞ってくれました。もちろん、すべて手料理。食材は炭山産です。ひと仕事終わった後、皆で食べる食事は格別。食卓に飾られたコスモスのおもてなしに胸が熱くなりました。

土を耕し、心を耕す。「この平和と自然がずっと続くといいなあ」と思える場所、心が豊かになる場所、炭山。この取り組みで伊万里の未来を背負って立つであろう子どもたち、また当社を担っていく若手社員に、炭山の景色や農業を肌で感じてもらうことで、棚田という美しい景観を次の世代へ残していくきっかけになればと願っています。

12月上旬。炭山から車で山を下ること、わずか3分のところにある古伊万里酒造の創業は明治42年。現在も熟練の職人たちが昔ながらの寒造りで、ひとつ1つの作業に手間をかけ、お酒を造り上げています。地元の酒蔵であることはもちろん、受け継がれていく技と味、情熱は当社経営理念と重なり「お酒造りはぜひ、古伊万里酒造で」と前田社長に直談判したところ、快く2つ返事で引き受けてくださいました。

▼お酒と酒器



寒造りは早朝の作業に加え、麴菌や酵母菌といった菌類を必要とし、酒蔵に入る人は納豆を食べてはいけない等、繊細な部分が多く、当社若手スタッフのみ参加しました。精米、洗米と作業が進む中で、蒸し上げられた酒米を手でほぐす「麴作り」の作業では、熱さに耐えきれず「アツッ！」と声を上げるたびに怒られ、タンクをかき混ぜる「仕込み作業」では腕が上がりなくなり年配の職人と交代させられるなど酒造りの厳しさを目の当たりにし、作業の丁寧さ、奥深さ、仕事に対する情熱を肌で感じる事ができたことは、非常に大きな収穫となりました。

1月下旬に完成した日本酒は「すみやま」と名付けました。50周年に因んだ銘柄にしても良かったのですが、炭山とお酒が全国に知れ渡り「炭山に足を運んでみたい！」と思っていただけだと、地名にしました。

前田社長も「香り高いフルーツのような吟醸香と甘く旨味たっぷりの飲み口に、爽やかなガス感が見事にマッチしたワイングラスに良く合うお酒に仕上がった」と満足していただきました。

「すみやま」のお披露目は、2月11日に開催した当社記念式典です。式典は誰もが参加できるイベントと同時開催し、式典では、炭山の稲穂と彼岸花に、縁起の良い動物「福良雀」をデザインした伊万里焼の酒器とセットにして佐賀県知事、伊万里市長をはじめ、功労者や株主の皆さんに贈呈しました。酉年なので、干支の置物としても楽しんでいただけたと思います。また、来場者にも、限定(1合瓶)で配布しました。

この式典やイベントの様を生中継したことや取り組みをコミチャンで放送したことがきっかけで、視聴者の方々から「すみやまはどこで売っているの?」「ぜひ、飲んでみたい」という声があがり、式典から2週間後に、市内11店舗の酒屋やスーパーでの販売が、急きょ決定しました。

また、大手スーパーから「店頭で販売会をしたい」と依頼があり、3月4日・5日の2日間、古伊万里酒造と合同で「販売及び試飲会」を実施しました。販売会前後の2週間、店長から店内3カ所のモニターで当社で制作したCMを流したいと依頼があり、1分間のCMがエンドレスで24時間、2週間流れ続け大反響でした。

これらの活動が佐賀県や伊万里市の耳に入り、なんと！すみやまがふるさと納税の商品として採用されたほか、3月23日には、炭山地区と当社が協定を結び「棚田保全を目的としたボランティア活動」を行っていく調印式(県主催)を実施。これは県内初の試みで、炭山地区に助成金も支給されることになりました。

当社の加入率は98%。沢山のお客様に、長い間支持頂いています。この加入率を減らさない取り組みが、今後、必要です。そのためには「地域貢献」と「絆」を当社のブランドとして定着させ、お客様・地元企業との「つながり」をもって解約防止に努めるとともに、お互いに収益を伸ばしていくことが大切です。

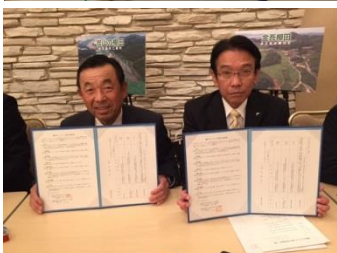
さて、約1,500本造られたお酒は、3月末でほぼ完売。来年も引き続き、生産することが決定しました。また、地元飲食店のメニューにも採用され売り上げも順調です。夢が現実となりつつあり、嬉しい限りです。次は、この炭山に市外、県外から人を呼び田植えや稲刈り、酒造りに参加してもらい、外部から伊万里を発信してもらおうべく、今、準備を進めています。都市から炭山の棚田にきて、体験し、絆ができて…都会では味わえない景色や人の暖かさ、自然と平和、そして美味しいお米とお酒を食したら「引退したら伊万里に住もうか！」なんて思ってもらえるかもしれません。

伊万里という町が生き残っていくためには「食」と「農業」だと常々考えています。伊万里に行楽地やビールを作っても仕方ありません。“何もない”ことは“豊かさがある”ことだと、私は思っています。

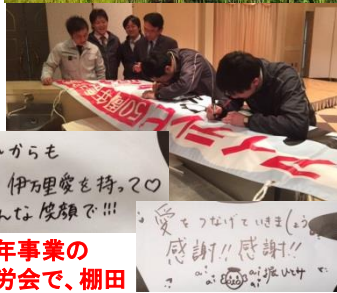
▼お酒の販売会



▼協定の調印式



▼炭山の彼岸花



ここから
伊万里愛を持ち、こ
みんな笑顔で!!!
周年事業の
慰労会で、棚田
に掲げた横断幕に思い出や豊富を
みんなで書き綴りました。
「伊万里愛」「感謝」という言葉に、
若手社員の自覚が生まれた事業にも
つながりました。